



脱原発世界会議 2012YOKOHAMA 企画報告書

子ども向けプログラム

「今を生き、未来をつくる子どもたちの場所」

- タイトル：「今を生き、未来をつくる子どもたちの場所」
- 日時：1月14、15日
- 場所：318、交流広場の一角
- 参加人数：約200人
- 報告書記載者（文責）：早水綾野/グリーン・アクション

子どもの参加場所を設ける目的で子どもプログラムを企画した。当初は子どもの意見を会議に反映させることを目的にしていたが、企画段階でより子どもたちが主体的に参加できるような企画に変更をした。

◆ 子どもクエスト

担当者：松田牧恵・菅野綾子・浦山絵里・高尾戸美・河合理美・草谷緑・竹丸草子

5つのミッションをクリアしながら会場内を探索する。ミッションは知らない人に出会い話しかけながらクリアして行く仕掛けで、海外から来た人や福島から来た人と出会う、また再生可能エネルギーについて学ぶような内容になっている。

参加した子どもには感想や意見を附箋に書き「子どもの木」に貼ってもらった。内容としては「外国人としゃべったのははじめてで、楽しかった」「いつもは会えないひとと会ってしつもんができてよかった」など知らない人と話して感じたことや、「原発のない世の中を目指して頑張るぜ!」「でんきは原子力がいにもいろんなものがあつた」など原発について感じたこと、また、福島について「福島のいいところをもっと知りたい」「福島のおじいちゃんの家で安全に遊んだりご飯が食べたい!」など書いてくれた。将来の夢を書いている子どもたくさんいた。

◆ 子どもPRESS

講師：木野龍逸/フリーライター（協力：白石草/Our Planet TV）

担当者：菅野綾子・浦山絵里・近藤波美（子どもたちを放射能から守る全国ネットワーク）・吉野裕之（子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク）・菊地奈緒美・西山陽一（グリーン・アクション）・喜内尚彦

木野龍逸さんを講師に行う子どもたちの記者体験。小4から中2の子ども14名が参加、3名1チームで取材を行った。子どもたちで「子どもPRESS」のブログにアップし

（<http://kodomopress.jimdo.com/>）、取材内容のシェアも行った。最後には、脱原発世界会議TVに出演、記者会見（取材発表）を行った。

取材先：

- ①ふくしまの部屋 「ふくしまダイアログ（対話）【広げる】」企画者
- ②写真展・展示エリア「原爆から原発へ 世界の核を追ったカメラマンの証言」野田雅也さん
- ③海外ゲストと話そう～世界の視点から～「放射能について聞こう」ローラン・オルダムさん
- ④もちこみ企画「地球一周で出会った北欧の社会とこれからの日本の暮らし」瀬古昇さん
- ⑤もちこみ企画「命～あなたはどうか生きてますか～」牛山翔太さん

3時間の長い企画なので子どもたちが途中で飽きてしまうのではとの懸念があったが、実際は真逆でみんなお昼を食べるのも忘れる程、取材・ブログアップに夢中になり、記者会見ぎりぎりまで粘って書いている子もいた。

まずはファシリテーターのもとアイスブレイクを行い、次に木野さんによる取材の仕方レクチャーを行った。その後チームを分け取材先を分担、「海外の人に会いに行きたい！」など子どもたちも希望を言ってくれたので、スムーズに決めることができた。

取材はまず取材先の企画を15分程度聞いてから、終了後にインタビューを行った。私は海外ゲストチームに同行。放射能被害について深掘した内容の質疑が行われていたにも関わらず、子どもたちは真剣に聞いていた。

取材中、事前に考えていた質問以上に聞きたいことが出てきたようで「もう1ついいですか？」と繰り返し質問をしており、相手の言葉を自分で噛み砕きながら取材をしているのがよく見て取れた。

子どもからは「ニュースは本当か嘘かわからないから、本当に現地に行った人の話を聞いて現実がわかった。みんなに伝えたいことがある。」といった感想があった。あるいは後日子どものお母さんより「参加後子どもが取材をして感じたことをたくさん話してくれて、良い経験ができたみたい。」といったメールを頂いた。その子は家に帰ってから子どもPRESSブログの掲示板に「私たち子どもにできることは安全に健康に育つことだ」とすばらしい内容の書き込みをしてくれている。

◆ KIZUNA タペストリー 紙すきワークショップ

担当者：國高ひでき・岩佐奈保・青木真奈美・西郷和将・井上元江・菊池沙織（日本和紙造形研究所）

東北でも実施している紙すきで和紙の作品をつくるアートワークショップ。子どもたちそれぞれの「気持ち」がすき込まれた作品はみんなの作品が集まって1つのタペストリーになる。カラフルな作品が壁際に飾られて行き、とてもやわらかい雰囲気だった。大人気だったので予約をして待っている子どもが他の企画に来たり、子どもの木に「紙すきが楽しかった」と感想を書きにくる子もいた。

◆ おうち切り紙ワークショップ

担当者：下中なほ・菊地久美子・山下嘉子・大杉芙未・楨隆宏・平山広一

白い紙を切ってつくったおうちを床をはわすように飾っていき、どんどんまちを広げていくワークショップ。交流広場までまちを広げ、大人からも「子どもたちの勢いを感じた」と好評だった。また、頭を使う考えさせられる企画の後に子どものスペースに来るとまちの風景が広がっていて癒されたといった感想をたくさんもらった。

